



大貫 昭彦

# 歴史ロマン・オンライン鎌倉 6 「御成敗式目 1 - 悪口は重罪」

2020年7月25日



## 日蓮流罪

弘長元年(1261)年5月、日蓮上人は伊豆に流されました。流罪先は伊東の城ヶ崎付近、悪口を言ったという理由でした。上人は、前の年に幕府に対して「立正安国論」という建白書を上書し、近年の天災や世の乱れは、浄土宗のような邪宗が原因だから念仏僧に布施するのをやめよと進言したのです。

このため念仏の信者たちが、上人の庵を襲い焼き払いました。

当時、鎌倉には幕府が定めた武家法がありました。執権の北条泰時らが定めた「御成敗式目」です。「貞永式目」ともいいます。

その第10条に「悪口のとがの事」という条文があります。幕府はこれを根拠に流罪にしたのです。

第十条 闘殺の基は悪口より起こる。その重き者は流罪に処せられ、その軽き者は召し籠めらるべきなり。問注(裁判)の時悪口を吐かば則ち論所(係争中の所領)は敵人に付せらるべし。また論所の事、その理なき者は他の所領を没収せらるべし。もし所帯なき者は流罪に処せらるべし。

## 波多野忠綱、賞与没収

相模の武士波多野忠綱も、悪口の為に大損をした一人です。建保元年(1213)5月、北条氏と和田義盛の一族が激突

した「和田の乱」が起きました。この時忠綱は、北条氏に従って手柄を立てました。

しかし忠綱は賞与から外されました。当時、武士は自分の手柄を書面(軍忠状)にして自己申告しました。その折、三浦義村の軍忠状の内容と重複する所があって争ったのでしょう。このやり取りの中で、忠綱は暴言を吐いたのです。



↑

由比ヶ浜から伊豆に船出する日蓮。同行を求めた弟子の日朗は役人に権を打たれ拒否された。



伊豆流罪

まないたいわ

伊東の孤島 俎 岩 に取り残された日蓮 →

勲功の事。宗とたる分、今日までこれを定めらる。波多野中務丞忠綱が事、無双の軍忠においては御疑ひに及ばずといへども、御前において対決の時、(三浦)義村をもつて盲目と称し、悪口をなすの上はもつて賞を加へず。罪科に準ずべきの由、沙汰ありてさしおかるるところなり。子息次郎経朝が賞の事はこれを行はる。(吾妻鏡)

和田の乱は、御成敗式目が成立する前の事件です。しかし、悪口は武士の世界では許されないのが常識だったのでしよう。このように刑法がなかった時代、武士の常識と同様の事例処理を参考にしながら問題を解決しました。次も武家の法律がなかった頼朝時代の話です。

#### 同士討ちは指切り刑

元暦元年(1184)6月17日 鮫島四郎宗家を御に召し、右手の指を切らしめ給ふ。これ昨夕騒動の間、御方討ちの罪科あるが故なり。(吾妻鏡)

同士討ちが指切刑になった例です。この事件の前日、甲斐源氏の一族の一条忠頼が御所に招かれて殺されました。武田氏や安田氏といった勢力を擁する甲斐源氏を恐れた頼朝がその弱体化をもくろんで仕組んだ事件です。騒動の最中に鮫島宗家が味方の武士を討ってしまったのです。

今回は、こうした経験を重ねながら作られた御成敗式目をさらに深めます。



由比ガ浜遠望